

久留米大学を受診した患者さんへ

「再発・難治性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する自己末梢血幹細胞移植の後方視的検討」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の情報を使用します。

- 1) 期間：平成17年4月から平成27年12月
- 2) 受診科：血液・腫瘍内科
- 3) 対象疾患名：びまん性大細胞型B細胞リンパ腫
- 4) 使用する情報：診療記録

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：久留米大学 内科学講座 血液・腫瘍内科部門
 研究代表者：教授 長藤宏司
 研究分担者：助教 中村剛之
 助教 大屋周期 籠手田聡子 武田治美 森重聡 山口真紀
 毛利文彦 関律子 大崎浩一

2) 研究の意義と目的：悪性リンパ腫は血液の悪性腫瘍で、リンパ球が異常を起こして無秩序に増え、リンパ節の腫れ、発熱、全身倦怠感、寝汗、体重減少などの症状が出現する病気です。びまん性大細胞型B細胞リンパ腫は、悪性リンパ腫の中で、最も多いタイプです。これまでの研究より、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対しては、R-CHOP療法（リツキシマブ、シクロホスファミド、ドキソルビシン、ビンクリスチン、プレドニゾロン）と呼ばれる治療法が標準的化学療法になっています。しかし、このような標準的化学療法による治療にもかかわらず、治りにくい悪性リンパ腫が存在し、完全寛解（病変が消失すること）に至らなかったり、再発したりした場合は、さらなる強力な治療が必要となります。強力な治療法のひとつとして、大量化学療法に引き続き行う自家末梢血幹細胞移植があります。今回、治りにくいびまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対して、当院で自家末梢血幹細胞移植をおこなった症例を評価し、治療の有効性や安全性などを確認し、今後の臨床治療へ貢献することを目的とします。

3) 研究の方法：平成17年4月から平成27年12月の期間で、治りにくい（寛解に至らなかった、再発した）びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対して、自家末梢血幹細胞移植を当院で施行した患者さんの診療情報を集め、治療の有効性、安全性、臨床的特徴との関連性

などを統計学的に解析します。

4) 研究期間：平成28年8月倫理委員会承認後～平成29年10月

5) 上記の情報の使用を選定した理由：本研究はびまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する疫学や治療前の状態、自家末梢血幹細胞移植の治療成績などを総合的に評価するために、診療記録に残されている臨床経過や検査結果を幅広く用いる必要があります。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：この研究から得られた結果は、日本血液学会学術集会で、発表する予定です。検査の内容や結果があなたのものだとわかる形で外部に公表されることは一切ありません。またあなたの住所、氏名、電話番号などの個人情報研究データとして使用されることも一切ありません。

7) 研究成果の発表の方法：日本血液学会学術集会で発表予定です。

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

久留米大学 内科学講座 血液・腫瘍内科部門 助教 中村剛之

(住所) 久留米市旭町67

(TEL) 0942-31-7852 (FAX) 0942-31-7854